

清泉女子大学  
データサイエンス AI 教育プログラム  
自己点検・評価報告書

2024 年度

清泉女子大学では、2022年度より「清泉女子大学データサイエンスAI教育プログラム」を実施している。2024年度のプログラム実施について、清泉女子大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会にて自己点検・評価を行った結果は以下のとおりである。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本教育プログラムは、必修科目2科目と選択必修科目2科目の4科目から構成されている。従って、本教育プログラムを修得しようとする学生は、4科目のうちの選択必修科目1科目を積極的・意識的に履修登録する必要がある。2024年度は、選択必修科目のうち「現代社会とAI」で39名、「数理リテラシー」で16名、そのうち重複者3名を除き、計38名の学生が本教育プログラムを修得した。
学修成果	本教育プログラムを構成する4科目のうち、選択必修科目である「現代社会とAI」の履修登録者に占める単位修得者の割合が75%、「数理リテラシー」については82%となっている。従って、シラバス上の到達目標に鑑みた履修者の学修成果は概ね所定の水準に達していると判断できる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「データサイエンス入門」履修者の授業評価アンケートでは、7割程度の学生が内容を難しいと感じた一方で、同様に7割程度の学生がスキルにおいてとても向上したと回答した。また興味がとてもわいた、意欲がとても向上した学生も7割程度いた。 同様に「現代社会とAI」の履修者へのアンケートにおいては、回答者（回答率75%）の7割以上が「社会におけるデータ・AIの利活用」の現状やそれに関わる問題点・注意点への理解が深まったと回答した。
学修支援体制の構築	本教育プログラムにおける学修を支援するため、2024年10月より、数理教育アドバイザーによる相談（数量スキル・学びの相談日）を授業期間中に週1回開催し、学生からの質問や学修相談を受け付けた。同支援は個別指導のため、学生の関心やレベルに合わせて学修支援を行うことで授業内容の理解向上や授業外学修の促進につながった。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	2022年度は、本教育プログラムを構成する3科目のうち選択科目については、履修者数が9名であったが、2023年度は学期初めのガイダンス等で案内を行い、選択必修科目2科目の履修者が48名となった。さらに2024年度においても、学期初めのガイダンス等で学生に本教育プログラムについて周知し、選択必修科目2科目の履修者が55名となり、履修者数・履修率について一層の向上がみられた。
2025年度以降のプログラムの発展・改善	本学における2025年度からの改組（新学部設置）に伴い、2022年度から開始した本教育プログラムを発展・改善するため、2025年度入学者からは、本教育プログラムの科目を必修化し、全学生がプログラムを修得するようにカリキュラム変更を行った。

学外からの視点	
学外からの教育プログラム内容・手法等への意見	<p>2024 年度の本教育プログラム科目である「情報科学入門 1b」・「情報科学入門 2」・「現代社会と AI」・「数理リテラシー」について、学外の学術関係者および産業界関係者それぞれ 1 名からシラバスの点検・評価を受けた。カリキュラムおよび授業内容について、文系の強みを生かしながら実務にも活用できる点などが指摘され、適切である旨評価された。今後の課題としては、さらなる実務でのデータ活用スキルの強化やフィールドワークと AI 技術の融合、実践的なケーススタディの導入などが提言された。</p> <p>本評価は、今後のカリキュラムおよび授業内容の改善につなげていくため、本教育プログラムを管轄する学内委員会でも共有・議論が行われた。</p>
プログラムの取り組みについての報告会開催	<p>本学における本教育プログラムの取り組みについて紹介し、さらなる向上につなげていくため、2025 年 3 月 17 日、オンライン報告会「人文系専門課程における MDASH プログラムの取組について」を開催した。報告会では、2 年時以降の人文系専門課程における本教育プログラム科目での実践的な取り組みを紹介した。本報告会には学外の学術関係者も参加し、本学の取り組みについて活発な質問や議論が行われた。</p>